

CASBEE®名古屋

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築環境2016年版、名古屋大学建築環境品質評価システム2016 | 使用評価ソフト: CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

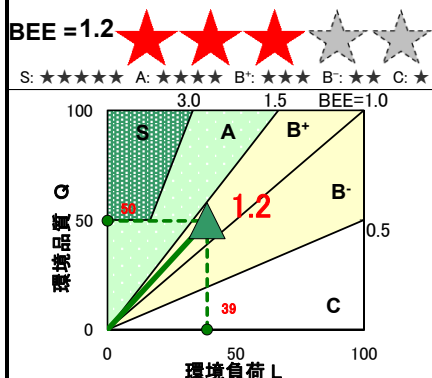
■ 評価結果 ■

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)モアグレース瑞穂区神前町 新築工事	階数	地上10F
建設地	名古屋市瑞穂区神前町二丁目31番4	構造	RC造
用途地域	第一種住居地域、近隣商業地域、準防火地域、31m高度地区、絶対高31m高度地区、緑化地域、宅地造成工事規制区域、都市景観整備区域、居住誘導区域内	平均居住人員	112 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅、	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2028年2月 予定	評価の実施日	2026年7月17日
敷地面積	995 m ²	作成者	
建築面積	316 m ²	確認日	2026年7月18日
延床面積	2,376 m ²	確認者	

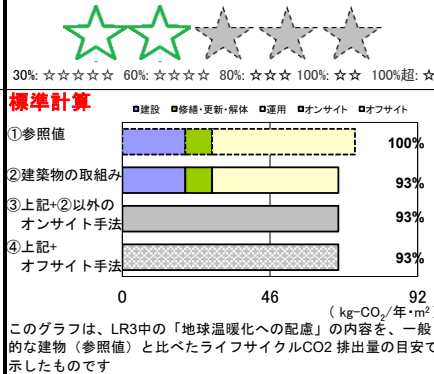
外観パース等

図を貼り付けるときは
シートの保護を解除してください

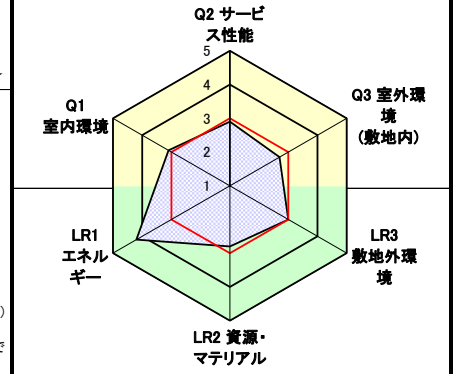
2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)



2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

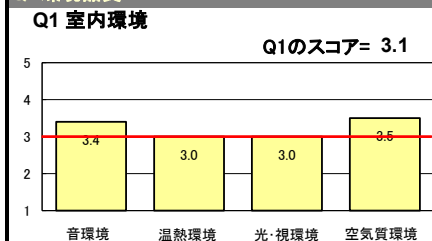


2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

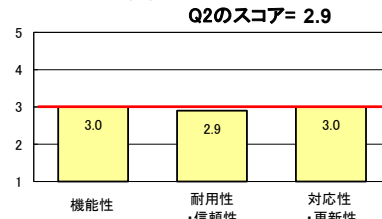


2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質

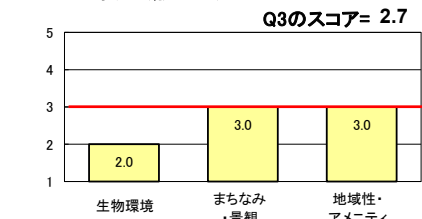


Q2 サービス性能



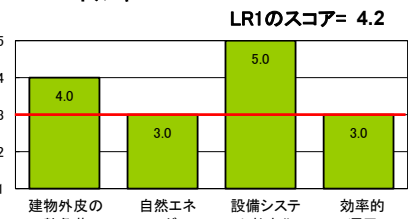
Q のスコア = 2.9

Q3 室外環境（敷地内）

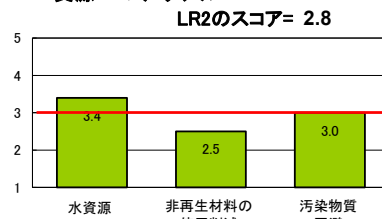


LR 環境負荷低減性

LR1 エネルギー

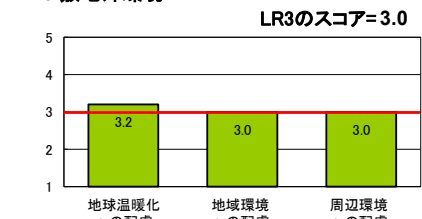


LR2 資源・マテリアル



LR のスコア = 3.4

LR3 敷地外環境



3 設計上の配慮事項

総合

住宅街のため周辺に配慮した外観を確保した。

その他

Q1 室内環境 床衝撃音に対しての遮音性が優れているスラブ厚250mm以上を確保。	Q2 サービス性能 階高2.8m以上とし室内高2.45mとしゆとりある住空間としている。	Q3 室外環境（敷地内） 周辺環境に配慮し住戸分の駐車場を確保した。
LR1 エネルギー 共用部分の証明器具をLEDを使用し消費電力を抑えた。	LR2 資源・マテリアル 節水型便座や水栓を採用。	LR3 敷地外環境 周辺住民に配慮し隣地・道路界には緑を設けた。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目スコア・結果シート

(仮称)モアグレース瑞穂区神前町 新築工事

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル

■評価ソフト:

CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

重点項目		評価	全体に対する 重み係数	重点項目 スコア
1. 温暖化対策				3.9
LR1	エネルギー	4.2	0.4	
LR3.1	地球温暖化への配慮	3.2	0.1	
LR3.2.2	温熱環境悪化の改善	3.0	0.066666667	
2. 自然共生				2.3
Q3.1	生物環境の保全と創出	2.0	0.09	
Q3.3.1	地域性への配慮、快適性の向上	無	0.009	
Q3.2	まちなみ・景観への配慮			
Q3.3.2	敷地内温熱環境の向上	3.0	0.045	
3. 循環型社会				2.8
LR2.1	水資源保護	3.4	0.06	
LR2.2	非再生性資源の使用量削減	2.6	0.18	
LR3.2.3	地域インフラへの負荷抑制 ※2	3.0	0.025	

結果

1. 温暖化対策

評価点 = 3.9



2. 自然共生

評価点 = 2.3



3. 循環型社会

評価点 = 2.8



重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1 2) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。